

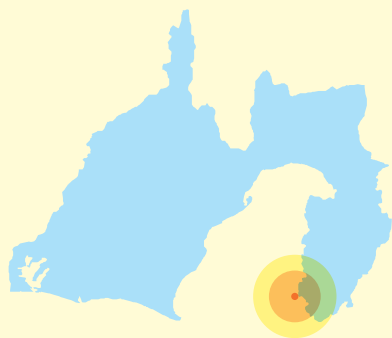
● 南伊豆伊浜藻場保全協議会

代表 高野 譲

〒415-0153 賀茂郡南伊豆町手石 877-17 tel.0558-62-2804

主な構成員（人数）：漁業者 47 名、漁業者以外 23 名 計 70 名

関係市町：南伊豆町 ※静岡県漁港建設協会・(株)鉄組潜水工業所



●活動地域

2022年現在、伊浜地区は登録漁船25隻、漁獲量1.2t、生産高5百万円の小さな漁村です。周辺は風光明媚な景勝地で最盛期には40軒ほどの民宿がありましたが、現在は1軒のみとなり高齢化が進んだ限界集落となっています。主力魚種はイセエビ、サザエ、アワビ、フナですが、かつて周辺に密生していたカジメが磯焼けにより消滅したことに伴い貝類の漁獲が激減しています。

●協定面積 6ha

対象種の紹介

カジメの特徴：コンブ目、水深2～10mの岩礁の上に群落を形成する。食用ではなく主にアルギン酸の原料となります。アワビなどの餌、魚類の生育の場となり沿岸漁業や海の環境上も重要です。



■下流沖のカジメ群落(母藻の供給源)



■伊浜漁港内のカジメ群落(防波堤壁面)

対象種の分布・生育状況

伊浜地区のカジメは漁港内に生育するのみで漁港の外には全く見られません。伊浜沖の天然礁(点石帯)は丸坊主ではなく小型藻類がところどころ繁茂する他、近年はサンゴも見られます。自然条件としては夏場の高水温が冬まで残り高水温が続いています。加えて港外は遮蔽物が少なく台風や冬季風浪の波を直接受けるため生育は厳しい状況です。

保全活動の必要性

伊浜地区はカジメの分布の南限に近く、移植を1971年頃から数度行う事により、粗密を繰り返してきたが、今世紀初頭からの磯焼けによりカジメはほぼ壊滅し現在に至っています。漁業者が高齢化し後継者もなくカジメ場の保全が困難なため、地域の力を結集してカジメ場の保全の必要性がります。

これまでの活動成果

これまで伊浜港内では一年中カジメが繁茂していましたが、今年度の高水温によりまばらな状態となり、毎年港内の船底に密生する幼体がまったくない異常な状態となりました。そこで伊豆東海岸で幼体が繁茂している小稲漁港の漁業者に協議したところ採取が許可されました。このように今までにない漁業者間の協力体制が出来きました。

今後の活動指針

●保全活動の目標

伊浜地先のカジメ群落の保全のため簡易で安全な手法により地域の関係する誰もが支援できるような体制づくりを目標とします。

